



令和3（2021）年12月9日（木）

マレーシア大使館講演会を実施しました！

2 学年・国際理解委員会



12月9日（木）、マレーシア大使館より、タンゲスワリー・パレスワラン（Thangeswary Paleswaran）一等書記官（First Secretary）をお迎えし、昨年度に続き2回目となる「マレーシア大使館講演会」を本校体育館にて実施しました。講演会に先立ち、コミュニケーション英語Ⅱ授業でマレーシアのPR動画を見て、生徒は質問を作成しました。当日は3年生（昨年度講演を聴いた）が手を振る中、タンゲス一等書記官は体育館に入場し、2年生徒が拍手でお迎えしました。

【講演会内容 私たちが学んだこと】

マレーシアとは→マレーシア独立から今日までの歴史、1957独立～1970までは農業、1970～1990は建設業、1990～2000は工業、そして今日ではハイテク産業を基幹産業とし発展してきた。多宗教、多民族であること、経済状況について。

日本との関係→マレーシアにとっては中国、シンガポール、アメリカに続く第4位の貿易相手国であること。日本との外交は1957独立直後から今日まで続いていること。2015～日本とマレーシアは両国関係を「戦略的パートナーシップ」に格上げし、さらなる結びつきを強めていること。

マレーシア大使館の役割→日本政府（外務省）との窓口であり、10,000人も在住マレーシア人（うち留学生3,000人）の出入国フォローや、日本での生活の橋渡し役など。特に新型コロナウイルス問題が起こってからは、ASEAN10か国と連携し、各国対応など連絡調整を図り、様々な問題解決にあたっている。



講演会の最後には、タンゲス一等書記官がマレーシアのポップソング「ラサ・サヤン」の歌を、ご自身のウクレレ演奏と共に紹介されました。今年度は20名以上の生徒がインタビューに選ばれていましたが、時間の関係上そのうち14名の英語による質問に、丁寧に答えていただき、その温かいお人柄を会場にいる全員が感じることができました。



「ラサ・サヤン」の演奏

英語での質疑応答

【生徒の感想より（抜粋）】

- ◆ 大使館に役割について（マレーシアと日本をつなぐ、マレーシア人を守る、新型コロナ対応に深く尽力されていることなど）
- ◆ 日本との友好関係が古くより始まり、良好な関係を継続していることを知った。
- ◆ 両国の関係をさらに強固なものにするにはどうしたらさらに良くなるのだろうか。
- ◆ 自分はまだまだ知らないことが多い。国の外にも目を向けてみようと思った（複数）
- ◆ 「日本人が好き」という現地の方々のエピソードは日本人の一員として嬉しかった。自分もそのように思われるような存在になりたい。
- ◆ 私たちと同年代のマレーシアの人たちはどんな生活をしているのだろうか。
- ◆ 環境問題にどのような対応をしているのだろうか？知りたい。
- ◆ 文化が違うからこそ魅力を感じる。海外の方の話を聞くのはすごく新鮮で楽しかったです！早く海外に行きたい。（多数）



お出迎えした生徒と

全編英語での講演会（通訳あり）は、2年生にとって、「生きたリスニング学習の場」でもありました。「英語を聞く→理解する→自分で考える」と、英語学習のモチベーションアップにもつながりました。本校ではこのご縁を大切に、今後も様々な形の交流を企画していく予定です。タンゲス一等書記官ならびに大使館の皆さま、ありがとうございました！マレーシアという国や、大使館の仕事について知るきっかけとなりました。テレマカシ（Thank you）！



副校長とタンゲス一等書記官



質問者との集合写真